



双方向交流の波を全国津々浦々に 来場者は過去最高の18万5800人

JATAと日本観光振興協会(日観振)は9月22日から25日までの4日間にわたり、東京・有明の東京ビッグサイトと日本橋エリアで「ツーリズムEXPOジャパン2016」を開催しました。今年で3回目となった世界最大級の旅の祭典には、世界140の国・地域と国内47都道府県から1181の企業・団体が参加し、展示会の来場者数は過去最高の18万5800人に達しています。

4年間で観光大国を実現

田川博己JATA会長は、リオデジャネイロから東京へ五輪旗が渡されたこと而言及し、「この記念すべき年からの4年間で観光大国を実現し、日本ブランドを世界に発信していく黄金のチャンスが到来した」と指摘しました。

その取り組みのついで、JATAと日観振、日本政府観光局(JNTO)は10月22日までの約1カ月間にわたって、観光庁文化庁スポーツ庁の協賛による「ジャパントラ

ベルマンス(スポーツと文化を旅する秋)を実施しています。

田川会長は、東京五輪が開催される2020年に向けた4年間におけるツーリズムEXPOジャパンの展開について、「国内の展示で地域の魅力売り込むDMOの役割を強化し、訪日の商談を意識したものに深化させると同時に、海外旅行復活に向けたプロジェクトなども合わせて三位一体の統合効果を目指す」と説明。ツーリズムEXPOジャパンが持つ「国際交流のイベント」としての効果を地方へ波及させるこ

とを検討する方針を示し、「全国津々浦々に海外旅行・国内旅行を通じた交流の場が実現される観光大国の実現に貢献する」考えを強調しました。

さらに、田川会長は「アジアの双方向交流のリーダーとして、私たちの知見を世界に発信することにも力を入れていく」と表明。今年はMICE&スポーツという五輪開催を見据えたテーマを取り上げる「アジア・ツーリズムリーダーズウォーラム」について、毎年テーマを変えて、観光の持続的発展という国連や世界の求める共通価値を実現するために、国連世界観光機関(UNWTO)やアジア太平洋観光協会(PATA)と「東京宣言」を発信することを明らかにしました。

旅行需要回復と観光復興を

開会式に来賓として出席した石井啓一国土交通大臣は、観光が成長戦略と地方創生の大きな柱という認識から、政府が一丸となつて観光先進国の実現を目指す「明日の日本を支える観光ビジョン」を策定したことを紹介。「真の意味で観光先進国を実現するには、インバウンドだけでなく、国内観光の振興や日本と海外との双方向交流も重要だ」という認識を示し、「ツーリズムEXPOジャパン」の開催がこれらの促進に大きく寄与するものと確信している」と語っています。

さらに、石井大臣は、今年で3回目を迎えた「ツーリズムEXPOジャパン」について、「日本や世界の魅力を紹介する展示会やシンポジウム、商談会など、世界最大級の旅の祭典に育ってきた」と評価。「災害などによる需要の落ち込みからの観光復興やユニバーサルツーリズムも重要なテーマだ」と強調して、「ツーリズムEXPOジャパン」を契機に、熊本九州地方への旅行需要回復や東北地方などの観光復興が実現され、高齢者・障がい者などが安心して旅行を楽しめる環境整備が促進されることを期待している」と表明しました。

「ツーリズムEXPOジャパン2016」は、世界各国・地域や国内各地の観光情報を提供する「展示会」や内外のサプライヤーと旅行会社が一堂に会する「商談会」な



菅義偉内閣官房長官



石井啓一国土交通大臣



田川博己JATA会長

ど5つの事業を通して、東京でオリンピック・パラリンピックが開催される2020年に

向けて、日本のツーリズム産業が担うべき役割と可能性を内外に示しています。

JAPANNIGHT 日本橋で多彩な魅力を発信

「ツーリズムEXPOジャパン2016」

の「JAPANNIGHT 国際交流の夕べ」には、菅義偉内閣官房長官も駆けつけ、「安倍総理が3年前の施政方針演説で『世界の人たちを惹きつける観光立国の推進』を宣言して以来、政府は戦略的なシフトや免税制度の拡充など、大胆な改革を矢継ぎ早に実行してきた」と説明。「安倍政権では、観光を成長戦略・地方創生の重要な柱と位置づけ、2020年には訪日外国人旅行者数の4000万人達成という新たな目標を立て、引き続き大胆な取り組みを進めていく」と決意を示しました。

菅官房長官は、「今回の経済対策では、訪日旅行者数4000万人を見据えて、クルーズ船受け入れ環境の整備やCIQ体制の強化など、インフラの拡充を図る」と語



ビルの谷間を進む秋田竿燈は雨上がりの夜空に映えました

り、「観光庁予算も当初予算で倍増して、海外でのプロモーションの要となる日本政府観光局(JNTO)の海外事務所を14カ所から一気に21カ所に増強して戦略的なアピールを図る」と強調。「観光先進国の実現を目指して『出来ることはすべてやる』という決意で、政治主導による観光分野の改革を進める」考えを明らかにしています。

また、石井国土交通大臣は「ストレスフリーの旅行環境の整備、観光産業の革新と国際競争力の強化、地方創生の礎となる観光資源の魅力向上など、様々な施策を展開していく」と意欲を表明。「江戸時代から商業文化の中心として栄えてきた日本橋で、日本の魅力を体感してください」と呼びかけました。

「ツーリズムEXPOジャパン2016 JAPANNIGHT」は、五街道の起点



「牛深ハイヤ踊り」の先頭を行く元気印のくまモン

であり、日本の伝統芸能や文化の中心として江戸時代からの賑わいを今に伝える「日本橋」を会場に開催されました。国内外から訪れたツーリズム業界関係者に日本各地のお祭りや地域の名品など、多彩な日本のお魅力を紹介し、「観光の力」「地域の力」に加えて「日本文化の素晴らしさ」を発信しています。

日本橋・江戸桜通りで開催された「日本橋 賑わい広場」では、日本全国のアンテナショップや日本橋の老舗店舗などが出店して、各地域でしか味わえない魅力や美味を来訪者に堪能してもらいました。

また、日本橋・中央通りを舞台に繰り広げられた「JAPANNIGHT Smile Bridge」では、江戸火消しによる木遣りや纏振りなどがオープニングを飾ったのに続き、鹿沼秋まつりの「鹿沼彫刻屋台」、「秋田竿燈まつり」、熊本「牛深ハイヤ踊り」がパレードで繰り広げられ、熊本の元気のシンボルとなったくまモンも法被姿で登場して、沿道の喝采を浴びました。



都内では初めてのお披露目となった「鹿沼彫刻屋台」

ツーリズム・アワード 飛騨高山の取り組みに大賞

ベルサール東京日本橋で開会式に行われた第2回「ジャパンツーリズムアワード」表彰式では、大賞を受賞した飛騨高山国際誘客協議会をはじめ、各賞受賞者が登壇して、長年にわたって知恵と工夫を積み重ねてきた取り組みなどが紹介されました。表彰式には、高山市の國島芳明市長も駆けつけ、「各地の目標となるような高山市であり続けるように努力したい」と喜びを語りました。



山口日銀振会長(左)と記念撮影に応じる飛騨高山国際誘客協議会の堀泰則会長(中央)と高山市の國島市長



国内・訪日領域優秀賞はクラブツーリズムの「世界初!視覚障がい者 夢の自動車運転体験ツアーの実現」が受賞